



NPO法人 大谷石研究会

大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌

ooyaishi

「来らっせ」に展示・販売コーナー — 大谷石の新たな活用法提案 —

NPO法人 宇都宮まちづくり推進機構
大谷石特別委員会委員長
塩田 潔

NPO法人宇都宮まちづくり推進機構の大谷石特別委員会では、大谷石のブランド化のために様々な活動を展開してきましたが、今回宇都宮市馬場通りの「ラ・パーク長崎屋」地下1階のギョウザ専門店が並ぶ「来らっせ」の物産コーナーの一角に、「大谷石製品の展示・販売ブース」を開設いたしました。最近、大谷石は建材のみならずアートや工芸品等インテリア製品としての可能性が高まって来ています。様々な可能性を秘めた「大谷石」の製品をギョウザを食べにくる県内外のお客様に知ってもらい、生活の中で親しんでもらえたらと考え、「来らっせ」を運営する「宇都宮餃子会」の協力により実現いたしました。「宮染め」のコーナーには、柱廻りに「大谷石」と「宮染め障子」のコラボレーションの照明が浮かんでいます。販売品は、NPO法人大谷石研究会会員の小堀幸雄氏の作品のランプやキャンドル台、苔玉等の鉢、同会員高根沢公男氏の作品のス



「展示・販売ブース」は、大谷石と焼き杉板、黒のカシュー塗りのカウンター、ガラスの棚板の組み合わせにより、大谷石の製品を引き立たせています。

ピーカー等多くの作品が陳列され、ギョウザを食べに来たお客様の目にとまり、徐々に売り上げも増えているようです。大谷石建築の写真パネルも展示し、総合的に大谷石のPRコーナーとすべく、定期的に模様替えや展示・販売品も新たな挑戦をして行きたいと思っていますので、皆様もぜひ「来らっせ」に足を運んでいただき、いろいろなアイデアやご意見をいただきたいと思います。



(NPO 法人 大谷石研究会 副理事長)

大谷石昔ばなし…6

大谷石の品質調査

(NPO法人 大谷石研究会広報担当 柏村 祐司)

屏風岩石材部が発行した大谷石のカタログに、宇都宮石材問屋組合が東京市技師兼陸軍経理学校講師工学士の三橋四郎に依頼して行った調査結果および証明書が載っている。内容は、大谷石が伊豆の斑石、房州の元名石及び天神山や鉄筋コンクリートなどと比較するに、吸水量が少なく岩質が比較的緻密で厳寒中屋外に置いても他の石材よりも減量少なく

比較的耐寒力が強く、また、耐火度についてはコンクリートに勝り房州産元名石とほぼ同じ、耐圧力では豆州産斑石以上の結果がでたというものである。

この調査の目的は、明治後期年間4万トンで低迷していた販売量の拡大をねらったものと思われる。大谷石の間屋ではこうした検査結果に意を強くし、宣伝・販売に攻勢をかけたのであろう。その成果があらわれたのか大正元年の石材販売は、見事に回復したばかりでなく、飛躍的な発展を遂げ年間14万トンと飛躍的伸び、その後も増すのであった。



未知なる空間

大谷石を切り出した、巨大地下採掘場跡
ここは外界の世界から遮断された、
静寂と神秘の大空間。
四季により表情を変える巨大地下空間を
ゆっくりとお楽しみ下さい。

大谷石の歴史と巨大地下空間

大谷資料館

<http://www.oya909.co.jp/>

〒321-0345 栃木県宇都宮市大谷町909
TEL 028-652-1232 FAX 028-652-0624

みずほの緑の郷

トヨタウッドユーホーム

〒320-8541
栃木県宇都宮市一ノ沢町256-7
☎ 0120-115-109
<http://www.toyota-woodyou.co.jp/>